

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	都市・地域構造再編小委員会	主 査 名：姥浦 道生 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：野澤 康
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人口・世帯減少が進行する中、都市・地域の空間構造、すなわち面的土地利用、点的施設配置、線的交通ネットワークを、人口・世帯減少に適合した持続可能な形態に再編する必要性が生じてきている。政策実務的にも、このような都市・地域構造の再編に関する計画として、さまざまな計画の策定が各地で進められてきている。本小委員会では、このような人口・世帯減少への適合を目的とした都市・地域構造再編の実態とその課題を明らかにするとともに、そのあり方について議論・提示することを目的とする。</p> <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の開催（春・夏・冬）：研究方針に関する検討・事例の収集を通じた研究・分析の枠組みの共有 ・ 学会大会における OS の実施 ・ 合同見学会・ヒアリング調査の実施 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の開催（春・夏・冬）：事例発表を通じた基礎的情報の共有と各視点から見た課題の整理 ・ 学会大会 OS の実施 ・ 合同見学会・ヒアリング調査の実施 <p>3 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の開催（春・夏・冬）：目標都市構造像と実現手段との乖離状況の把握と新たな制度のあり方に関する検討 ・ 学会大会 OS の実施・PD の実施 ・ 合同見学会・ヒアリング調査の実施 <p>4 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究会の開催（春・夏・冬）：新たな制度設計に関する提案 ・ 合同見学会・ヒアリング調査の実施 <p>学会大会における OS の開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：姥浦道生（東北大学） 幹事：松川寿也（長岡技術科学大学）、原田陽子（福井大学） 委員：川崎興太（福島大学）、吉田樹（福島大学）、秋田典子（千葉大学）、星卓志（工学院大学）、野澤千絵（明治大学）、吉次翼（榊博報堂）、中西正彦（横浜市立大学）、眞島俊光（榊日本海コンサルタント）、恒川和久（名古屋大学）、小林俊樹（北九州市立大学）、片山健介（長崎大学）、柴田裕（熊本県立大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2020 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： https://mattsul.wixsite.com/website

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	

<p>講習会</p>	
<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. コロナ禍の影響により、特に期間前半および大会期間中は、小委員会の開催や現地視察等の十分な活動を行うことができなかった。 2. ただし、学会大会においてオンライン OS を開催し、また公開研究会を2回にわたりオンラインで開催するなど、期間後半は積極的な活動を行い、最終的には当初の目標は十分に達成されたと考える。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 当初はオンラインによる活動に不慣れな部分や支援が不十分だった部分もあったが、徐々に改善された。 2. (問題点・課題では必ずしもないが) 小委員会活動の中核をなす活動の一つである現地視察をコロナ禍で行うことができなかったのは、非常に残念であった。</p>